# 令和８年度　第３回

# 富良野市サイクルツーリズム推進連携会議（議事録）

## ＜議事次第＞

日時：令和８年10月20日（火）14：00～16:00
場所：コンシェルジュフラノ２階　会議室

・出席者
＜委員＞
中村委員、西野氏（秋元委員の代理）、浅野委員、小笠原委員、石出委員、藤澤委員、エバンズ委員、（計８名）
＜事務局＞
対馬主幹、早川（計２名）

１．開会
　中村会長より、開会の挨拶が行われた。
　挨拶の中で、先進地視察を通じた本市の受入体制の課題や、道路幅の確保の必要性について言及された。
　また、既存の公園、トイレ、屋根のある休憩所等を活かしたコース見直しの重要性について認識が示され、委員からの意見を踏まえながら白紙の状態から計画を作り込んでいきたい旨が述べられた。

２．報告事項
　（１）トカプチ400視察の報告及び情報共有について　　・・・資料１
　事務局より、資料に基づき、令和8年6月23日に実施したトカプチ400の視察内容について報告が行われた。
・帯広エリア（オビクル等）における多言語対応マップの設置、自転車保管庫、レンタサイクル受付窓口の状況、及び地元自転車店への委託を通じた緊急対応ネットワークの構築について報告された。
・ルート上の走行空間の整備に関して、国・道・各市町村の道路管理者ごとに整備状況に差異が見られる旨が共有された。
・宿泊施設（アンドロー様）における、自転車を解体せずに保管できるスペースの確保や

工具類の充実状況、道の駅（中札内）でのイベント開催状況について報告された。

・トカプチ400推進協議会との意見交換結果として、全体の整備進捗率は約97%であること、NCR（ナショナルサイクルルート）登録後も継続的な整備の進捗が求められること、積極的な自転車イベントへの参加がNCR登録への近道であること等が共有された。

３．協議事項

（１）スケジュールの見直しについて　・・・資料２

【理由】

・富良野美瑛ルート協議会におけるルート試走や先進地視察の結果、現在の路面状況や受入環境ではナショナルサイクルルートへの登録が厳しいと判断され、令和８年度中に予定していた広域ルートの策定が延長となりました。
これに伴い、ルート決定前に本市の受入環境整備等に関する計画を策定することが困難であることや、近々予定されているナショナルサイクルルートの基準見直しへ的確に対応するため。

事務局より、広域ルート（富良野美瑛ルート）の策定延長に伴う本市推進計画のスケジュール変更について説明が行われた。

試走や先進地視察の結果、現在の路面状況や受入環境ではNCR登録が厳しいと判断され、広域ルートの策定が延長となった旨が報告された。これに伴い、本市においてもルート決定前の受入環境整備計画策定が困難であること、及び近々予定されるNCR基準見直しへ対応するため、令和9年度から策定予定であった本市計画を延期（令和11年4月策定目標）する事務局案が提示され、了承された。

（２）富良野市エリアにおけるサイクリングルート（案）について　・・・資料３

事務局より、資料3に基づきルートの事務局案（たたき台）が提示され、委員間で意見交換が行われた。

・トイレ・休憩施設について

・「麓郷街道方面は自転車で15～20分程度かかるため、トイレ問題が生じる。ゴルフ場や既存の公園等の施設との連携も検討すべき」との意見が示された。

・安全・交通量について

・「山部に向かう道や五条大橋付近は交通量が多く危険である」「レンタカーがナビの案内で意図せず細い道に入り込むケースがある」との課題が共有された。

・情報発信・標識について

・「路面ペイント（矢羽根）や案内看板の設置が不可欠であり、市町村間でデザインを統一し、直感的に分かりやすい表示とすべき」との要望があった。

・レベル別コース・路面状況について

・「初心者向け（トイレ・休憩所多め）と上級者向けでコースを分けることも検討すべき」

との意見が示された。

・「グレーチング（側溝の蓋）の隙間等、ロードバイクの細いタイヤにとって危険な箇所への配慮が必要」との指摘があった。

・道路管理者への連携・要望について

・「ルート上の道道等の整備（路面改修やペイント等）について、ルート（案）の約８割近くが道道のため、北海道の道路管理者へ環境整備を強く要望していく必要がある」との認識が共有された。

４．その他

・「降雪などの北海道独自の事情はNCR基準において考慮されるのか」との質疑があり、西野氏より「基本的な基準は全国一律であり、定められた要件を満たす必要がある」旨の回答が行われた。

・「美瑛側にもゲートウェイを設定し、JR等公共交通機関との連携（サイクルトレイン等）を図るべき。本会議として公共交通との連携を推奨しているという姿勢を示すことが重要」との意見が示され、事務局より、「ゲートウェイ要件を満たすことはハードルが高い面もあるが、サイクルトレイン等はNCRの要件にも含まれるため、広域協議会の場でも連携の重要性を伝えていく」旨が回答された。

５．閉会

事務局より、提示したルート案について持ち帰り検討の上、追加意見等があれば事務局へ連絡するよう依頼が行われた。

特段の連絡事項がないことが確認され、閉会した。